



フィリピン・ラサール高校での交流

## フィリピンの「おもてなし」に触れ、学ぶ

<国際理解教育事業：担当スタッフからのレポート>

6月26日、名古屋の高校生が、フィリピンでの交流を通してコミュニケーション力を高めるとともに、地球規模の課題について考えていく、2週間の国際理解研修が始まりました。

今年参加した高校生9名は、英語が苦手な子が多く、最初の訪問先である私立高校に到着し、朝礼で全校生徒の前に立つと、不安と緊張で顔が強張っていました。しかし、パレードのように盛大な歓迎や、先生によるタガログ語クイズ、生徒による校内ツアーなど、様々なおもてなしを受け、徐々に緊張がほぐれていきました。その後の交流会では、順番に自己紹介をする場面で、英語がうまく伝わらず苦労する姿も見られましたが、フィリピンの子が何度も聞き直してくれたり、ジェスチャーを交えながら教えてくれたりしたことで徐々に通じ合い、趣味が一緒だと分かってハイタッチをする生徒もいました。

訪問後は、その日感じた事を振り返り、皆で共有する時間を持ちます。「英語が得意ではないので不安だったけど、何回も言ってもらうことで理解でき、自信になった」「授業で分からなかった時、隣の名前も知らない子が助けてくれた」など、フィリピンの生徒の優しさに触れたことへの感想が多く上がりました。中には、「交流会では質問を受けるのがほとんどだったけど、1回だけ自分から質問できた」と、苦手意識を持ちながらも、一歩踏み出した生徒もいました。一方、「自分は何も質問できず、情けないと思った」と言う子もいましたが、できなかったことや失敗も学びとなり、次の日の訪問で改めて挑戦します。

私たちは、こうした日々の様子や振り返りの記録をスタッフ間で毎晩共有し、生徒一人一人の状態や変化を把握します。そして、必要に応じて、訪問先の方々にプログラムの調整を急ぎ相談することもあります。皆さんはいつも快く応じてくれ、どのような変更が可能か提案をしてくれるなど、全員がその日をよりよいものにできるよう、最善を尽くしてくれます。こうしたフィリピンの人たちの「おもてなし」を受け、生徒たちは笑顔を返したり、タガログ語で「ありがとう」と言ったりと、直接相手に想いを伝えることができるようになります。生徒たちの心を開き、コミュニケーション力を伸ばしてくれるフィリピンの人々は、この研修の立役者です。これからも一緒に、よりよい研修を作っていきます。



ICAN マニラ事務所  
阿部真奈(あべまな)  
～プロフィール～  
亜細亜大学国際関係学部  
卒業。日系NGOのフィリ  
ピン駐在員等の後、2009  
年よりアイキャンのボラ  
ンティアへ。外務省イン  
ターンプログラムを経て  
2012年4月より現職。

### Project Site



<特集>  
マニラ首都圏

②ブキドノン

※●はアイキャン活動地  
※番号は裏面に対応

認定NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

# Close up

## I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全10事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

### ①路上の子どもたち

6月13日/リザール州サンマテオ

#### 入所した子どもたちが通学を開始



フィリピンの学校の新年度が始まり、児童養護施設「子どもの家」に入所した子ども6名が、通学を開始しました。登校初日、「楽しみ」という子どもがいる一方、「知り合いがないので緊張する」という子もいましたが、帰ってくると、「先生が読み書きを教えてくれた」「新しい先生やクラスメイトと出会えて嬉しい」といった声が多く聞かれました。6名は、その後も毎日元気に通っています。

### ②先住民の子どもたち

6月21~24日/ミンダナオ島ブキドノン州

#### 先住民の子どもにやさしい学校運営



先住民の子どもにやさしい学校運営に関する研修を行い、15校の校長、教師、地域リーダー計44名が参加しました。先住民の文化に配慮したカリキュラムや運営計画を作るため、教師らは、文化的価値観に基づいた意見を地域リーダーに聞き、4日間を経て、この地域で初めての、先住民の子どもにやさしいカリキュラムと学校運営計画の案が作られました。今後時間をかけて最終化していきます。

## II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

### フェアトレード事業

6月2日/名古屋

#### 文化祭での販売に向けて

愛知工業大学名電高等学校の生徒会から、新役員を含む6名が日本事務局を訪れました。9月の文化祭で毎年フェアトレード商品の販売をしてくださっており、その準備に向けた勉強ということで、アイキャンの活動や商品の背景についての説明をさせていただきました。説明後、「商品販売の際に来場者に伝えられるよう、アイキャンやフィリピンを紹介するチラシを自分たちで作る」と言ってくれました。



### インターン育成事業

6月25日/名古屋

#### 初めてボランティアをする人へ

愛知大学で開催された「ぼらマッチ!なごや」の中の講座「国際ボランティアはじめの一歩☆」において、インターン生が発表をしました。ボランティアに関心がある市民を前に、自分がインターンになる前の気持ちを思い出しながら、聞き手の立場を考えて話すことができ、「目的に合わせて、何を伝えるか、またその伝え方について、事前に職員から教えてもらい、勉強になった」と話しました。



## 今月の Topic

### 「NGO 相談員」として、3件の出張を実施

2016年度も外務省の「NGO 相談員」を受託し、6月は3件の出張を実施しました。NGO 活動に関するご相談を無料で受け付けています。お気軽にご連絡ください。(TEL: 052-253-7299、メール: info@ican.or.jp)

【6月に実施した出張サービス】

講演: 国士舘大学 (6/13)、静岡文化芸術大学 (6/20)、イベントでの相談: ぼらマッチ!なごや (6/25)



## 今月の Media

6月 聖霊中学校高等学校時報第139号 フィリピンとの交流について

## 今月の ICAN 名人

© 洪佐さん、引越されてからも、どうぞよろしくお願ひします!

### マンスリーパートナー 佐佐武夫さん

#### 「子どもたちがご飯を食べられるように」

インタビュー: 7月16日

2012年11月、勤め先の呼びかけで、東日本大震災の被災地のボランティアに参加し、アイキャンを知りました。それを機に、どんな活動をしている団体なのか興味を持ち、名古屋の日本事務局にボランティアに来たり、翌月に起きた台風パブロの被災地に対する寄付をしたりと、徐々に関わりが増えました。会社から近いということもあり、ボランティアは、帰りや休みの日に時間があれば行くものという感じにいつの間にかなっていました。

その後、直接現地を見なければと思い、スタディツアーに参加することにし、現地で子どもたちと話せるようにと、語学教室「スマイルチケット」でタガログ語の勉強もしました。ツアーで現状を目の当たりにして、自分のちっぽけなボランティアは役に立っているのかと疑問に思えてしまいましたが、帰国してからは、ただ自分が作業をするより、他のボランティアの人のバックアップをできたらと思うようになりました。例えば書き損じハガキのカウントでも、初めての人のやり方を教えて一緒にやることで、力になっていると感じることができました。

マンスリーパートナーになったのは、フィリピンで物乞いの子に何もできなかったことが心に残っていて、自分が寄付をすることで、向こうの子どもがご飯を食べられれば良いなと思ったからです。来月から転勤で愛知を離れますが、マンスリーパートナーは続けます。フィリピンの子どもたちには、ご飯を食べて勉強して沢山遊んで、子どもらしく育ってほしいと思っています。



【編集者から一言】夏のスタディツアー(A: 8/17-21、B: 8/31-9/4、C: 9/7-11)の参加者をまだまだ募集しています。詳細はHPへ。http://www.ican.or.jp